

町田市教育長賞

『大切な人の笑顔を守る税』

町田市立忠生中学校 3学年 吉野 陽大

税について、僕は正直にいうと良いイメージはない。なぜなら、ニュースでは毎日のように増税という言葉を聞くし、増税になると生活が大変になると言っている街のインタビュ어도よく見る。僕の知っている税といえば所得税、消費税、住民税の三点だ。ほかにも税の種類はあるだろうから人々が生活していくほとんどのことに税は関わっているのではないだろうか。なぜ国民が働いたお金から税を納めなければいけないのか納得できないので税のイメージは良くない。

そこで税金が何に使われているのか、どういう役割があるのか知りたかった。

国税庁のホームページに、国の財政について歳入と歳出のグラフがあった。国の歳入は国民からの税金が半分以上だった。そうか、国は税がないと成り立たないのだと思った。考えてみれば当然だ。国は給料はもらえない。国民の税金が支えているのだ。歳出を見てみた。社会保障費という、医療や福祉、介護のための支出が一番多い。

僕は思い出したことがあった。妹は聴覚障害があり、人工内耳という補聴器具を装用するために、手術をした。自己負担では数百万

もするらしい。僕はびっくりしたが、妹は医療費の補助があり、手術を受けることができたそうだ。現在は家族の言葉が聴き取れるようになった。

また、先日祖母の家に行ったら、家に手すりは何個もついで、ベッドも介護ベッドに変わっていた。病気をして身体も弱り、歩きにくくなっていた祖母が嬉しそうに歩きながら僕に部屋を説明してくれた。そして、デイケアに週三回通っているそうだ。お金の心配をしたら、介護のための補助があるそうだ。

病気をしたから心配していたけれど、最近の祖母は、なんだか表情がイキイキとしている。お金の心配をしないで、祖母が明るく安心して暮らせているのは税のおかげだ。

税の使い道の社会保障費というのは、きっとこつこつやって病気などで大変な思いをした人が、社会で暮らしやすくなるためのものなのだと思った。

国のホームページを見て、税によって僕たちの生活がより良いものになっていることがたくさんあると知った。税についていやなイメージはなくなった。

中学生の僕たちも、税について身近なものとして知ることとはとても大切だと思った。

納税とは、困っている人たちが自分たちのより良い生活のために、国が助けられるよう僕たちが国を支えていく行為だとも思った。

だから僕は将来、誇りをもって税を納めようと思う。真